

高知県版ランチパスポートの販売戦略の研究

—高知市の大学生を対象として—

1180430 近藤 玲生

高知工科大学マネジメント学部

1. 概要

本研究は、高知市でタウン誌を発行する出版社株式会社ほっとこうち（以下ほっとこうちと呼ぶ）が2011年に創刊したクーポン誌「ランチパスポート」に関するものである。ランチパスポートは一冊1000円前後で販売されており、通常700～1000円前後のランチを500円で食べられるクーポンが付いている。ランチパスポートのシステムは飲食店が広告費をかけずに店の宣伝をすることができ、お客さんはそれを見てランチを安く食べることができる。書店や出版社も本が売れることで儲かるという、コストの論理である。これまで一定の成功を収めてきたが、高知県版の売り上げが年々減少傾向にある。そこで本研究では、売り上げを回復するためにはどのような戦略が必要か明らかにすることを目的とする。そのために、まずは、高知工科大学生を対象としたアンケート調査を行った。その結果に基づき、ビジネス・エコシステムの観点、つまり、ユーザーにとっての価値の観点から新たな販売戦略を提言した。そこでは学生のライフスタイルに沿うために、ほっとこうちはスーパーやコンビニと新たな組織集合を構築しなければならないことが明らかになった。

2. 背景

発売当初は注目を浴びたランチパスポートだが、売り上げは年々減少傾向にある。そのことにより、本研究ではランチパスポートの販売戦略の研究を行う。そこでまず、売り上げが減少している原因は高知県の景気動向に可能性があると考えた。ランチパスポートの各販売月の売り上げデータと高知県の景気の動向を比較した結果、売り上げと景気は関係していないことが分かった。つまり、原因はほっとこうち自身の戦略に問題があると推察できた。

3. 目的

本研究では、高知の大学生のランチに対する意識調査を行

い、その結果に基づきランチパスポートの売り上げ回復に寄与できる戦略を提言することを目的とする。

4. 先行研究

市場では企業間の競争だけでなく、共存していく戦略も存在する。その中には、生態系生態学における考え方を借用したビジネス・エコシステムという考え方がある（加護野忠男(2016)）。

その中の研究として江口等の研究(2016)がある。そこでは、ビジネス・エコシステムを図1の枠組みで捉えている。その枠組みとは、新しい組織集ができることで、新しい商品やサービスが生まれ、それは新しい価値をもたらすことで市場に浸透する。上述のようにランチパスポートはコストの論理のみである。ビジネス・エコシステムの考え方に基づくと、新たな価値の創造が重要であると考えられる。

更に、江口等の研究では、そのようなビジネス・エコシステムを創造するために、エコシステム・エンジニアの必要性について言及している（図2）。そこでは、新しい組織、商品・サービス、価値を主導する存在が必要であり、それこそがエコシステム・エンジニアであると考えられている。このことにより、ほっとこうちはエコシステム・エンジニアとしての役割が求められると考えられる。

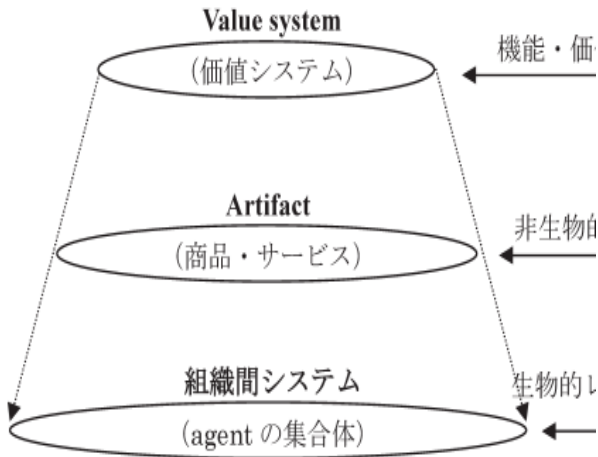


図1 ビジネス・エコシステムの3層構造
江口等(2016)より引用

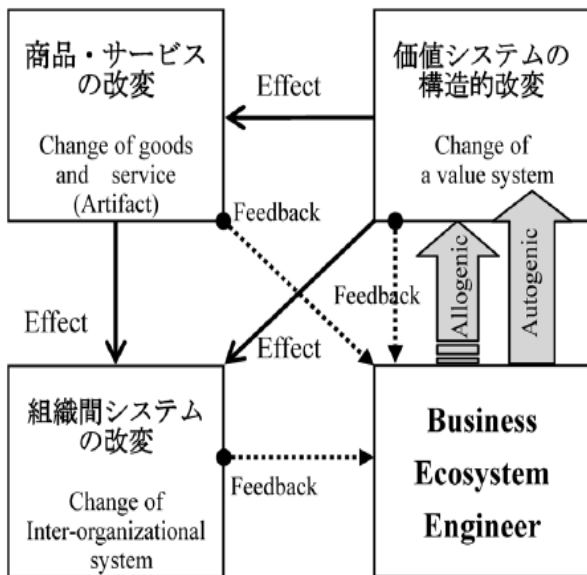


図2 ビジネス・エコシステムのフレームワーク
江口等(2016)より引用

5. 研究方法

上述のように、ランチパスポートはコストの論理ではなく、顧客にとっての価値に着目した戦略を展開する必要があると考えた。そのため、学生のライフスタイルを把握することが重要である。そのライフスタイルに沿うことにより、価値が生まれると考える。時間の都合上、高知工科大生を学生の代表とし、アンケート調査を実施した。その調査結果を単純集計、クロス集計を行った。それに対して、 χ^2 検定を行うことによって統計的に有意な確認を行った。

6. アンケート調査

上述のように、本研究における価値とは、人それぞれのライフスタイルに沿うことと定義した。つまり、ライフスタイルの中で時間やお金をかけているものこそが、価値を感じ大切にしているものであるとする。それは人によって衣食住であったり、娯楽や勉強、スポーツであったりと様々ではあると考えられる。これらの考えに基づき、高知市の学生はどんな生活を送っているのか、何に時間・お金をかけているのかを探る内容のアンケートを作成した(図3)。アンケートは、高知工科大生を対象に2017年9月、授業内で配布した。無記名・自記式で調査を行い、その結果有効回答者数は120名であった。

【平日】	【休日】
●食事にいくらまでお金をかけていますか。 朝 ~ () 円まで 昼 ~ () 円まで 夜 ~ () 円まで	●食事にいくらまでお金をかけていますか。 朝 ~ () 円まで 昼 ~ () 円まで 夜 ~ () 円まで
●どんな食事を食べますか。 <input type="checkbox"/> 自炊 <input type="checkbox"/> コンビニ <input type="checkbox"/> レストラン <input type="checkbox"/> カフェ <input type="checkbox"/> チェーン店	●どんな食事を食べますか。 <input type="checkbox"/> 自炊 <input type="checkbox"/> コンビニ <input type="checkbox"/> レストラン <input type="checkbox"/> カフェ <input type="checkbox"/> チェーン店
●何を重視して、食事を選びますか。 <input type="checkbox"/> 値段 <input type="checkbox"/> 食べる速さ <input type="checkbox"/> ボリューム <input type="checkbox"/> 食材 <input type="checkbox"/> カロリー等 <input type="checkbox"/> 流行	●何を重視して、食事を選びますか。 <input type="checkbox"/> 値段 <input type="checkbox"/> 食べる速さ <input type="checkbox"/> ボリューム <input type="checkbox"/> 食材 <input type="checkbox"/> カロリー等 <input type="checkbox"/> 流行
●食事は主に誰と食べますか。 <input type="checkbox"/> 一人 <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> 友人 <input type="checkbox"/> 恋人 <input type="checkbox"/> その他()	●食事は主に誰と食べますか。 <input type="checkbox"/> 一人 <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> 友人 <input type="checkbox"/> 恋人 <input type="checkbox"/> その他()

図3 アンケート質問例

7. 集計結果

本章で述べる比率は、 χ^2 検定より有効であったことをまず述べておく。集計結果は、表1~8に示す通りである。ま

た、高知市の学生は平日と休日を意識して区別し、異なる行動を取るのかという点を、食事の観点から分析すべく「平日と休日で食事の種類やパートナーは異なるか」といったアンケートを行った(表 7,8)。休日は特別ゆっくりと過ごし、平日よりも食事に特別な意識をしているのならば、その嗜好を活かした、新たなランチパスポートの在り方を見出せる可能性があると考えたからである。

表 1 平日の起床時間と就寝時間

【平日】主な起床時間は何時ですか。

6時以前	5.8%
6～8時	74.1%
8～10時	15.8%
11～13時	3.33%
13時以降	0.8%

【平日】主な就寝時間は何時ですか。

22時以前	0.86%
22～24時	41.3%
2～4時	46.5%
4時以降	11.2%

表 2 休日の起床時間と就寝時間

【休日】主な起床時間は何時ですか。

6時以前	1.6%
6～8時	40.6%
8～10時	37.2%
11～13時	18.6%
13時以降	1.6%

【休日】主な就寝時間は何時ですか。

22時以前	1.7%
22～24時	39.3%
2～4時	43.5%
4時以降	15.3%

表 3 食事にかかる時間と金額

平日	朝:16分	昼:24分	夜:28分
休日	朝:18分	昼:24分	夜:30分

平日	朝:322円	昼:649円	夜:921円
休日	朝:275円	昼:678円	夜:1008円

表 4 学校に通う日数

1日	0%
2日	3.3%
3日	7.5%
4日	16.6%
5日	55.5%
6日	5%
7日	12.5%

表 5 アルバイトの頻度と勤務時間

していない	32.2%
週1～2回	16.9%
週3～4回	40.6%
週5回以上	10.1%

～3時間	11.3%
～6時間	79.7%
～10時間	8.8%
それ以上	0%

表6 ストレスの発散方法

ストレスの発散はどのように行っていますか。	
食べる	15.5%
寝る	21.6%
運動する	16.1%
買い物する	7.9%
泣く・怒る	4.5%
誰かに話す	15.2%
歌う・音楽を聴く	16.7%
その他	2.1%

表7 目的意識

今、目指しているものはありますか。	
ある	66.3%
ない	33.7%

表8 平日と休日で食事のパートナーは変わるか

※括弧内は平日の数値と比較したパーセンテージ

【平日】食事は主に誰と食べますか。	
1人	47.5%
家族	29%
友人	45.9%
恋人	18.5%
その他	0%

【休日】食事は主に誰と食べますか。	
1人	50%(+2.5%)
家族	28.2%(-0.8%)
友人	40.3%(-5.6%)
恋人	19.3%(+0.8%)
その他	0%

表9 平日と休日で食事の種類は変わるか

※括弧内は平日の数値と比較したパーセンテージ

【平日】どんな食事を食べますか。	
自炊	71.7%
コンビニ	52.4%
レストラン	23.3%
カフェ	12%
チェーン店	25.8%

【休日】どんな食事を食べますか。	
自炊	73.3%(+1.6%)
コンビニ	40.3%(-12.1%)
レストラン	33.8%(+10.5%)
カフェ	13.7%(+1.7%)
チェーン店	32.2%(+6.4%)

短い睡眠時間の中、過半数が毎日通学しアルバイトにも勤しむ

睡眠時間は4~5時間

その為か、空き時間は休養に使う生徒が多い

学生120人の内、55%が学校に週5日通う

学生の40.6%がアルバイトを週3~4日行う(~6時間程度)

週1~2回(16%)週5~(10%)バイトをしていない(31%)

図6 高知工科大生の平均的な時間の使い方まとめ

8. 考察

アンケートの分析結果から、高知市の学生の大きな特徴として非常に活動的・アクティブであるということが判明した(図6)。平日と休日で、起床時間も就寝時間も変わらない(表1,2)。よって睡眠時間に差はなく、また、4,5時間時間と短い(表1,2)。更に、起きている間も、学校やアルバイ

トに通い活動的である。回答した学生の 55.5%が1週間の内、学校へ5日通っている(表4)。また、アルバイトを行っているのは全体の69%である。その内、40.6%が週3~4日の勤務で、勤務時間は平均6時間程度である(表5)。これらの点から、休日もただ時間を浪費するのではなく、アルバイト等の活動をしていると推察できる。それを裏付ける一面として、目的意識が高く、「今、目指している目標はありますか。」という質問の回答では、ある(66.3%)ない(33.7%)という結果が出ている(表7)。

しかし、ライフスタイルの観点で見ると、高知市の学生は勉学やアルバイトに時間を有効活用しようとする姿が見える。よって多忙であるため、ゆっくりランチを楽しんだり店を探す労力をかけたりすることは少ないと推察できる。つまり、高知市の学生とランチパスポートはあまり相性がよくないと言える。

それでもあえて、データを更に分析し、ランチパスポートの可能性を探ってみる。まずは、食に焦点を当てたアンケートの分析を以降行う。平日と休日で、食べる食事に大きな差はなく、一緒に食事を取るパートナーも変わらない(表8,9)。日本人の食事にかかる平均時間は1日1時間40分で、単純に朝食・昼食・夜食の3つで割ると1食33分である。高知市の学生の食事時間は平日休日・朝昼夜全てにおいてそれよりも短い(表3)。食事にかかる金額は、朝食の金額を1とすると、朝:昼:夜=1:2:3の比率でお金をかけている。このことから、比較的休日のディナーにはお金をかけて食事を楽しもうとしているが、ランチにはあまりお金をかけたくないという印象である。それに対し、ランチパスポートは初期費用として約1000円、食事代に毎回約500円かかり、加えて店を探す労力を要する。この点が、食事に時間もお金も惜しむ学生にランチパスポートが売れない最大の理由であると考えられる。

しかし、ストレス解消の方法に食事という回答が41.1%あることから(表6)、食事には前向きな印象である。だが実際に時間やお金はかけていない。アルバイトを行っている学生が約7割であり、食事にお金をかける優先順位は低いようである。だが根本的に食事に前向きなので、その気持ちを引き出すような工夫の余地があると言える。つまり、ほっとこうちはコストの論理ではなく学生のライフスタイルに沿う新しい

価値を提案することが必要と考えられる。

例えば、食事に時間をかけないのならば、短い時間で食べることのできる食事や店の提案をする。食事にお金をかけないのならば、低価格で満足できる食事や店の対案をする。この際、金銭面や健康面から、食事を自炊でまかなう学生が約7割いるということも念頭に置かなければならない(表9)。よって、ほっとこうちはコンビニやスーパー等とのコラボを視野に入れた展開が考えられる。つまり、上述のようにビジネス・エコシステムに基づいて考えると、今まではコスト重視の論理のみで、飲食店のみ組織集合のメンバーとして選んでいた。しかし、これからは学生のライフスタイルを重視した価値観から、コンビニやスーパーも新たなメンバーとして選ぶことが重要であると考えられる。そのようにして、ほっとこうちが新しいメンバーを交えた組織集合を形成することにより、新しいランチパスポートのオプションが開発されると考えられる。そこでは、高知市の学生のライフスタイルに沿うような新たな価値が生まれことが期待できる。以上のような連鎖を起こすために、ほっとこうちはビジネス・エコシステムエンジニアとして機能することが強く求められる。

9. 結論

当研究の成果としては、以下のようになっている。

- ・高知市の学生が、潜在的に求めるランチの在り方を見出した。
 - ・ビジネス・エコシステムを援用し、ほっとこうちにとって新たな戦略を提案した。
- 今後の課題は、
- ・ほっとこうちに、提案した販売戦略を検討・実践してもらう。
 - ・今回のアンケート調査は、高知工科大生の一部にしか行えなかったため、他大学の学生の意見を取り入れる。
- である。

参考文献

- [1] 江口耕三, 妹尾大 (2015): "ビジネス・エコシステムの形成プロセス: エコシステム・エンジニアのためのフレームワーク" 経営情報学会誌 Vol.23, No.4, pp.273-293
- [2] 加護野忠男, 山田幸三(2016): "日本のビジネスシステム

ーその原理と革新”

[3] 梶山泰生, 高尾義明 (2011) : “エコシステムの境界とそのダイナミズム” 組織化学 Vol.45, No.1, pp.4-16

[4] 竹内理, 水本篤(2012) : 「外国語教育研究ハンドブック」
<http://mizumot.com/handbook/>

[5] 八木京子(2017) : ”「生態学におけるエコシステムの概念に関する検討」” 江戸川大学紀要 Vol.27, pp.453-462

[6] 総務省 (2017) : 「生活時間に関する結果」
<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/pdf/gaiyou2.pdf>